

大鹿村中央構造線博物館たより 77号



月・火曜日休館

裾花川上流の露頭。海の生物の化石が見つかる。

TEL&FAX: (0265) 39-2205

E-mail: mtl-muse@osk.janis.or.jp

日本地質学会 学術大会 (2015 長野) に参加

9月11日(金)～15日(火)、長野市の信州大学で開催された地質学会に行ってきました。

宿泊先がたまたま長野盆地西縁断層の真上だったので、早起きして学会が始まる前に歩き回って地形を見ました。沈降している長野盆地と上昇している飯綱高原の境界の活断層で、NHKの電波塔がある城山の東側の崖～善光寺大門～県庁付近を通っています。裾花川の扇状地の北西側を何段にも切り上げているように見えます。高くなった側に善光寺が建っていますが、北側の箱清水に向かって低くなっているのは、扇状地面の南側が持ち上げられたために逆傾斜になっているのでしょうか。扇状地末端の地形を勉強しなければと思いました。この活断層の地下で1847年に善光寺地震が発生し、そのとき新たに地表に現れたずれ目が裁判所東の道向かいのひまわり公園に残っています。

9月14日(月)～15日(火)は、北アルプス爺ヶ岳の地質見学に参加しました。160万年前、まだ北アルプスの標高が1000mぐらいだったころ、爺ヶ岳と槍・穂高は大きなカルデラ火山でした。その火砕流は、西は飛騨高山、東はフォッサマグナの大峰高原に達しました。そのころから北アルプスは西側が上がるように回転しながら大きく上昇し、爺ヶ岳カルデラはほぼ垂直に立ち上がり、地下で固まった花こう岩が黒部の側に広く露出しました。鹿島槍～扇沢は花こう岩、爺ヶ岳はカルデラを埋めた火山岩です。爺ヶ岳の南峰と中央峰の間で、カルデラの底にたまった堆積層がほぼ直立してしまった姿を見ました。(河本)

9月13日(日)、地質学会による野外見学の1つ、「海だった長野の生き立ちを学ぶ」に参加しました。バスで長野駅を出発し、途中で地形や地層を観察しながら、戸隠地質化石博物館を目指しました。

戸隠から長野市街へ流れる裾花川沿いの地層は、泥や砂の堆積岩を主体に、火山灰が固まった凝灰岩などからなります。約1500万～300万年前まで、戸隠周辺



戸隠地質化石博物館 外観は小学校そのもの

は海でした。そこへ厚い地層が堆積、その後、海底が隆起して山となったため、現在は山奥でも海の生物の化石が見つかります。約400万年前の地層からは、クジラや貝類の化石が産出しています。

戸隠地質化石博物館は、廃校となった小学校を丸ごと利用しています。3階建て校舎の構造をそのまま生かしており、1階は受付や図書室、3階が常設展示室となっています。中間の2階には体験を通して学べる「ミドルヤード」と呼ばれる場があり、収蔵庫の見学や化石のクリーニングなど、様々な体験行事が行われています。そのほか、他の学校から譲り受けた標本や古い教材も収蔵しています。山間地にあり、公共交通機関での来館は難しいのですが、ユニークで魅力的な博物館でした。案内していただいた学芸員の方の考え方も参考になり、とても勉強になりました。(榊原)



大鹿村大河原小渋橋から見た赤石岳3121m

— 講演会のお知らせ —

- ① 南アルプスは高くなっているか
- ② GPSで分かってきたこと

講師：鷺谷 威さん^{さぎや たけし}（名古屋大学教授・もと国土地理院）

日時：2015年11月21日（土）午後1時30分～3時30分

会場：大鹿村交流センター

無料

問合せ：大鹿村中央構造線博物館

TEL 0265-39-2205



鷺谷威さん

1964年栃木県生まれ

理学博士

専門分野：地殻変動学

1990年4月から2003年3月まで国土地理院

2003年4月から名古屋大学助教授

2008年1月から教授

（減災連携研究センター・地震火山研究センター・理学部地球惑星科学科）

地殻変動の人工衛星による測量や水準測量などによる観測・データ解析・数値モデル化を通じて、地震、火山、テクトニクス等の理解や予測に取り組んでいる



大鹿村中央構造線博物館構内の
GNSS (GPS) 電子基準点